

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第1班

テーマ1	安心安全なまちづくりについて
要点	まちの防災体制などについて、皆さんの現状、心配事や意見、アイデアなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・現在の防災計画での津波は1mを設定しているが、これでは足りない。奥尻島の津波は10mだったが、東日本は奥に絞まっているので40mにもなった。留萌の地形も奥まっているリアス式なのでこの点も考えてほしい。 ・水害の時に低いところの被害が予想されており、浸水の調査や被災地区に住んでいる人口調査が必要ではないか。 ・直下型の地震対策も必要ではないか。 ・留萌川は改修され、直線的になっており、津波が何キロにも遡上るので心配だ。4Kmを想定しているが、これでは治まらず、潮静地区も水位が上がって危ないのではないか。 ・津波防災計画をきちんと作ってほしい。 ・東雲地区は内陸だが、津波が留萌川をどのように遡上ってくるのか、避難場所は神居岩しかなく、孤立するのではと心配である。 ・どういう経路で避難するのか市と連携してきちんと把握する必要がある。 ・元町地区では災害対策を講じているが、海拔が6mなので10mとなると津波対策までは作れないので、避難場所を検討している。避難場所はコミセンと小学校だが、児童・住民を収容する容量がない。 学校と話し合っているが、高台まで徒歩で25分としているが、津波到達まで時間が少ないので、児童をどう誘導するか基本的な見直しをしている。根本は高台への避難だが、災害の訓練の指導を受けることが必要。

テーマ2	経済の活性化について
要点	食資源を活かした新たな取り組みについて、皆さんのアイデアや経験などをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・市内だけでの消費では限界があるので、観光などで外から来てもらう必要がある。色々と策を講じてはいるが失敗が多いのは、観光は見るものがないからで、留萌は通過型で宿泊施設がないので、留萌に来て滞留時間が少なくなってしまう。 ・これからは魚の加工や料理教室などの体験型観光の時代だと思うので、生産者と行政が同じ方向で進むべきだと思う。 ・留萌市内には100～200人を収容できる施設がないので、大きな会議を開けない。 ・礼受の佐賀番屋を活用できないのか。 ・留萌には大勢で昼食を取れる場所(店)が少ない。市内で大きな大会をしても、観光協会でお土産を販売する値段が市内の店と同じ値段では駄目だと思う。 ・温泉施設の整備や活用も必要ではないか。 ・海水浴場が整備され夏場は観光客が来るが、自分のテントを持ち込む宿泊施設がないので留萌に金が落ちない仕組みになっている。経済の活性化のために何らかの手当てが必要だと思う。 ・市立病院跡に道の駅を造れないか。 ・道の駅を地域活性化の受け皿として、海産物を大きな規模で販売してはどうか。道北観光の拠点としても受け皿になる道の駅が必要だと思う。まち全体の体制で活性化策に取り組むべきだ。 ・魚の自由化や地場産品を見ても観光を取り巻く環境は年々状況が変化している。マガレイの値段は昔と比べて随分下がった。今では活魚も死んだ魚も値段が変わらない時代だ。夜にアメリカに発注すれば、朝市に間に合う。 ・留萌は車の流れの立地条件が悪い。色々な対策に期待するが思うように行かないのが現実だと感じる。 まちの空洞化が進み、シャッター通りになっている。行政が色々活性化に取り組んでいるが、どうしても生活が優先となる。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第1班

テーマ3	子どもたちの夢と可能性を育てるまちづくりについて
要点	地域や町内会における子育ての環境や船場公園の芝生広場などを活用した子どもの体力づくりについて、皆さんの意見やアイディア、実際の取り組みなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・若い人の雇用の場がないので、子どもが少ない。若い人が入ってくれば子どもの数が増える。 ・元町、春日町の子ども会は数が少なくなっており、なかなかミニチュケーションが取れなくなっている。港北は50人を切ってしまった。学校の再編成をするので子どもが少なくなっている。 ・行事に参加するにはお金がかかるが、市では日曜にバスを貸してもらえない。バス運行の助成やバスの貸し出しをしてほしい。 ・子ども会は停滞している、それは町内会で中心となって動く人がいないからだと感じる。30代ではどう子どもを動かして良いのかわからないので市でリーダー養成をしてほしい。 ・私どもの町内では、子どもがいる家庭は地域ぐるみで活動している。 ・潮静などの新興住宅地区では子どもは多いが、栄町は子どもが少ない。 ・子どもが集まらないので、クラブ活動ができない。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第2班

テーマ1	安心安全なまちづくりについて
要点	まちの防災体制などについて、皆さんの現状、心配事や意見、アイディアなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・日東団地の避難道路の早期着工と懸案事項である公共交通の団地内の運行について地域を代表して要望したい。 ・日東団地は、盛土によって造成されている。今回のような地震が、発生した場合大変不安である。 ・防災計画で示される避難所について、「津波の場合はここが安全です」の様な確立されたものを示してもらいたい。商店街では神社や文化センター、旧ラルズの何階、五十嵐町では道営住宅や市営住宅の何階、また南町では、自衛隊裏山など具体的に示してほしい。 ・開運町に居住しており昭和63年の水害でも大きな被害を被ったが、津波が発生した場合、例えば5メートルの場合は、この辺までとの市街地全体のシュミレーションを早く想定して、広報などで住民に周知してほしい。また、地域には高齢者や障害を持った方もおられるので、その方々への配慮もお願いしたい。 ・留萌川沿いに住むが、この度の東日本の大震災では川を遡上って津波が押し寄せた。留萌の場合も同様に津波が川を遡上することは想定されるので、このような場合はここに避難するとの正確な情報を早く策定して周知すべきと思う。 ・この度の震災では、自衛隊や警察の陰に隠れているが、消防団も重要な任務を担っていたと思うが、自分の地域ではなかなか後継者がいないとの情報もあり、体制が実在しているのか不安である。 ・この度の震災を契機に我々の地域でも自主防衛組織が出来つつあるが、この機運を大切にしっかりした体制を作るためにも行政のバックアップをお願いしたい。 ・防災無線が市内に配置されているが、あまり普段は活用していないので、いざという時のためにチェックをお願いする。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第2班

テーマ2	経済の活性化について
要点	食資源を活かした新たな取り組みについて、皆さんのアイデアや経験などをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	【食資源】 ・留萌ブランドの確立が必要ではないか。スイーツや数の子、留萌米など札幌や旭川の方への売り込みも必要だが、まず地元のPRをもっとすべきで、市民で取りかかる全体での取り組みを進めるべきではないか。千望高校の生徒も頑張っているの、地元でもっとバックアップをして行くべきと思う。 ・「うまいよ！ るもい市」の活性化が必要ではないか。地方からくる方に、お腹一杯ウニ丼を食べていただくような、他に無いような特徴を出さないと羽幌や増毛の「甘エビ」に対抗できないと思う。 ・隣街の増毛のような特産品が無いと感じる。留萌の特産や名産品を一同に集めて、販売や食することが可能な「道の駅」での売り込みや情報発信が必要だと思う。 ・地方からの来客があった場合、宣伝する物産の情報に乏しいので、情報の一元化のため「道の駅」が留萌にも必要ではないかを感じる。 【経済】 ・個店の接客マナーにも問題があり、客が都会へ流れるのは当然のように感じる。都会で進めている「おもてなし運動」をやってみるなど、もっと努力するべきではないかと思う。 ・地域では高齢者の一人暮らしなどで「買い物難民」が増えている。今年から導入予定の公共交通運行に期待している。 【観光】 ・留萌の観光は通年性に乏しい。「海のふるさと館」に温泉施設を設置して、夏は海水浴や夕日、冬期間は温泉施設としてはどうだろうか。

テーマ3	子どもたちの夢と可能性を育てるまちづくりについて
要点	地域や町内会における子育ての環境や船場公園の芝生広場などを活用した子どもの体力づくりについて、皆さんの意見やアイデア、実際の取り組みなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	【子どもたちの現状】 ・今の子どもたちは何をして遊ぶかが疑問。外で遊ばずに児童館などに集まり屋内で遊ぶ傾向にありまた、自宅ではゲームなどばかりしている。 ・中学生や高校生の行くところが無くなってきていてかわいそうな状況で、その辺にも目を向けてほしい。 ・留萌の子どもたちの状況把握が必要ではないか。外で遊ばないし、少子化で町内会の子ども会活動にも支障をきたしている。 ・我々の町内会では子どもの事業に力を入れている。子どもたちだけではなかなか進まないの、子どもたちを外に引っ張り出す工夫をしている。 ・孫が地方から来て遊ぶところが無いと感じるのが実状である。 【船場公園の利活用について】 ・市内の児童館が6館あるが、それを一堂に集めたイベント会場や「子ども祭り」の会場、「子ども盆踊り」の会場として活用できないか。 ・子どもたちが公道で自転車の練習を行うのは大変危険なので、公園の園路を開放できないか。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第3班

テーマ1	安心安全なまちづくりについて
要点	まちの防災体制などについて、皆さんの現状、心配事や意見、アイデアなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・津波対策については、ハザードマップの完成が2年後ということで、それはそれで進めてもらいたいですが、「今どうすべきか」が重要であると考えますので、「今できること」を市民に対して何らかの形で示しておくべきではないか。特に、どこに避難すべきか早急に周知してほしい。 ・防災についての「今までの取り組み」が実感できていない。例えば「情報の伝達」についても、本当に高齢者などの災害弱者一人ひとりに伝わっているのか、そのあたりもきちっと確認してほしい。 ・過去の体験で「すぐに避難すべきだ」「2階があれば待機すべきだ」などと、様々な情報が交錯していた記憶がある。そのあたりもきちっと整理し、正確な情報が伝わるよう対応してほしい。 ・よく市のイベント情報などを「車で広報」しているが、実際にはサーと通り過ぎていくために、聞いている方は何を話しているのか全然内容がわからない。そのあたりも日常的な取り組みとして、「車で広報の仕方」などを意識して取り組んでいかないと、災害時に活用できないと思う。 ・市の広報紙などを活用し「津波警報」が出された場合の具体的な対応がどうなるのか？防災行政無線でサイレンが鳴るのか？どういうアナウンスが流れるのか？どの地域で聞こえるのか？など、現状の対応状況などについて周知してほしい。 ・防災行政無線は沿岸部を中心に設置されているが、様々な災害や必要性などを考えると、全市的に聞こえるように屋外拡声機を増やすなど、防災行政無線の整備を進めるべきである。

テーマ2	経済の活性化について
要点	食資源を活かした新たな取り組みについて、皆さんのアイデアや経験などをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・「うまいよ！るもい市」をもう少し事業内容を広げ、場所をもっと街中の広いところでやると活性化になるのではないかと考える。 ・「うまいよ！るもい市」の拡大などにおいては、「道の駅」などを作ると、トイレの問題を含めてイベントを発展させることができるのではないかと考える。 ・「日曜の朝市」的な取り組みも含めて、そういう道の駅のような「拠点」があれば発展していく。行政だけに頼るわけではないが、きっかけとしての拠点も必要である。 ・行政に頼るだけでなく、それぞれバラバラに取り組んでいるイベント的なものも、地域や団体などがまとまって道の駅に集結するなどの取り組みを進めていくことも必要である。 ・住宅の新築現場などを見ていると、施行が地元の業者ではないケースが多く見受けられた。地元業者を利用する場合の「新築補助制度」など、地元の業者の活性化に向けた取り組みなども必要ではないか。 ・公園などの「トイレ」が使えなくなっているが、財政の問題については十分に理解するが、留萌市が「観光を目玉」としているのなら、やはり人を気持ちよく迎えるという意味においても、そうしたトイレなどの整備は、来てもらうための「原点」になるのではないかと思います。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第3班

テーマ3	子どもたちの夢と可能性を育てるまちづくりについて
要点	地域や町内会における子育ての環境や船場公園の芝生広場などを活用した子どもの体力づくりについて、皆さんの意見やアイディア、実際の取り組みなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・議題に入る前段として、町内に子どもがいないというのが、みんなの共通した実感ではないかと思います。 ・多くの公園が危険だから撤去ということで、「遊具」がなくなっている。財政事情ということは十分理解するが、子どもたちにとっての遊び場であるので、遊具がすべてではないにしろ、やはり集まるきっかけとして「子どもの夢」ということであれば、そうした遊具の配慮も必要である。 ・「トイレ」「水」「遊具」というのは、子どもたちが集うためには最低限必要なものであり、そういう意味において、高砂公園などでは子どもが集う姿が見られていると思うので、ぜひ考慮してもらいたい。 ・財政が厳しくなってきたので、公園設備などのそうした予算が子どもたちに使われていない。逆に、子どもにかかる予算を分散するのではなく、予算を確保する中で、集中して「学校教育の充実」を図るなどの取り組みも必要ではないか。やはり、子どもたちにお金をかけていくべきである。 ・子どもの施策として行政もたくさんのメニューをもっているようだが、一つ一つの事業の効果や実効性が薄いように感じるので、例えば事業を集約し、大きな範囲や規模での事業展開や似たような事業そのものを再構築する中で、もっと効果の上がる、例えば参加の多い事業の展開などを検討すべきではないかと考える。 ・事故防止を含めて、公園の管理という経費の面だけでなく、例えば公園の近くに住む大人が子どもたちを見守るとか、そういう「地域の大人が子どもたちを見守る」というようなシステム作りについて、もう少し展開を進めていく必要があるのではないかと感じている。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第4班

テーマ1	安心安全なまちづくりについて
要点	まちの防災体制などについて、皆さんの現状、心配事や意見、アイディアなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・災害弱者の問題がある。一人暮らしの老人など弱者を地域が把握して対策をたてなければならないが、個人情報のなどの取扱が問題となる。 ・市全体のことを考えると、低い地域、特に埋め立て地の液状化現象などの問題がある。液状化の予想される地域などの情報を住民に周知してほしい。 ・海岸部では、三泊の地滑り対策で斜路を作っている所があるが、避難路として活用できると思われるので、検討してみてもいい。 ・今回の震災の様子から、備蓄品として土のう袋や段ボールが絶対必要であり、確保してほしい。 ・防災無線など住民への周知を確実なものとするために電源の確保をしてほしい。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第4班

テーマ2	経済の活性化について
要点	食資源を活かした新たな取り組みについて、皆さんのアイデアや経験などをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・留萌の食資源はどこでもあるものであり、特色がない。メインになるものがない。 ・留萌の食資源がわからない。素材は他と変わらない。 ・地産地消の中身が見えない。 ・道の駅などをつくり、地元食材等のPRをしてはどうか。 ・旅行者から留萌の海鮮料理を食べたいが何処で食べれるかと聞かれてもすぐに答えられない。 ・みんなが行きやすい海鮮料理を出す店を市でバックアップしてみてもいい。 ・企画力がなく、イベントのネーミングが地味。またPRがたりない。 ・留萌の人は熱しやすく、覚めやすい。

テーマ3	子どもたちの夢と可能性を育てるまちづくりについて
要点	地域や町内会における子育ての環境や船場公園の芝生広場などを活用した子どもの体力づくりについて、皆さんの意見やアイデア、実際の取り組みなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・公園を町内会で清掃などしているが、遊具が老朽化して撤去すると後の補充がないため、遊具がほとんどなくなってしまった。また、トイレも閉鎖していて不便である。こんな公園は子どもにとって魅力がなくなっている。 ・滑り台、ブランコなどは最低限必要な遊具ではないかと思う。 ・高砂公園はいつもいっぱい子どもたちが遊んでいる。何故なのか研究をする必要があるのではないか。 ・町内会では夏休みにはラジオ体操、その他クリスマス会、餅つき会などを実施している。しかし、町内会の子ども数は年々減ってきている。 ・市で体験する事業などをもっと企画して実行してはどうか。 ・町内会も高齢化し、高齢者の問題の方が喫緊の課題となっている。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第5班

テーマ1	安心安全なまちづくりについて
要点	まちの防災体制などについて、皆さんの現状、心配事や意見、アイデアなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	〈防災マップ〉 ・早急に策定し配付してほしい。説明会の開催もお願いしたい。 ・普段からPR、情報提供をお願いしたい。 〈防災計画等〉 ・町内会では、以前より町内会単位で防火、防犯に自主的に取り組んできた。防災についても自助、共助の精神で、子どもや高齢者への助け合いが大切である。 ・自主防災組織の拡大には、市をはじめ他の団体との連携が必要であり、情報提供や意見交換の場を設定してほしい。 ・災害の種類、発生時期(夏、冬等)に応じた避難所の指定をお願いしたい。その指定には、市の施設だけではなく、国や道等の施設を含めて検討してほしい。幌糠地区での昭和63年の水害では、ほとんどの地区が低地だったことを考えると、高規格道路の除雪センターが避難所にならないかと思っている。 ・災害毎の支援方法、内容について周知してほしい。 ・町内会の役割を示してほしい。他の組織、団体の役割分担の再確認も必要である。 ・学校の耐震性に不安がある。避難所の再検討が必要である。 〈防災行政無線〉 ・聞こえない場合があり、防災無線の改良、設置場所を増やしてほしい。

テーマ2	経済の活性化について
要点	食資源を活かした新たな取り組みについて、皆さんのアイデアや経験などをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・地産地消の取り組みは地元へのPRがもっと必要で、一般市民の理解が大切ではないかと考える。 ・地元の人が気軽に立ち寄り、購入できる場が必要。市民への掘り起しが不足している。 ・留萌を訪れた人を連れて行く場所が無い。礼受牧場、ふるさと館などの施設があるが、もっと気軽に訪れ、自然を満喫できるような場所があればいいと感じる。 ・グルメマップなど、観光等の情報発信が足りない。 ・市内でスポーツ大会などを開催しても宿泊施設が足りなく、参加者に迷惑をかけている現状がある。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第5班

テーマ3	子どもたちの夢と可能性を育てるまちづくりについて
要点	地域や町内会における子育ての環境や船場公園の芝生広場などを活用した子どもの体力づくりについて、皆さんの意見やアイディア、実際の取り組みなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・今後、財政再建の黒字化が可能であれば、温水プールの再開をお願いしたい。 ・青少年健全化育成推進員として、子どもに関する一部について委託事業を実施しているが、町内会、学校などの関係団体の理解や連携が無い。
その他	〈財政再建計画〉 ・数字上では赤字が減少しているように見えるが、本当に黒字になっているのか。 ・借金の先送りだけではないか。計画性を持って着実に財政健全化を責任を持って進めてほしい。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第6班

テーマ1	安心安全なまちづくりについて
要点	まちの防災体制などについて、皆さんの現状、心配事や意見、アイディアなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・泉町内会では、台風時に独居老人宅に5分以内で駆けつける体制を作っているが、最近では若い人がいなくなったことと老人が避難場所まで行くことが問題となっている。 ・千鳥町では机上計画はあるが、日中は仕事があるためなかなか訓練ができない。また、袋小路となっているため避難しにくい。 ・老人世帯は把握しているが、どのように助けるのか、朝、日中、夜間体制などこれから考えていかなければならない。 ・町内会が小さいため、隣りとの付き合いを密にして横の繋がりを築いている。 ・高台にあるため津波の心配はしていないが、地震に対する訓練をしていかなければと考えている。高齢者が多いため、どのように行うのか問題である。避難経路に国道があり危険なため、避難場所の変更も考えなければならない。 ・独居老人が多い。最近ではどのような生活をしているかわからないことが多くなった。 ・高齢者、介護必要者の避難体制を作れるか検討をしていかなければならない。 ・避難場所が、現状とあっているのか再検討が必要である。 ・町内会館は耐震性が保障されていないが、避難所としての備品整備など、避難場所として充実していけるか検討すべきではないか。 ・日東団地、自由が丘、ひまわり台など袋小路、海岸線など避難道路は複数用意すべきである。 ・防災放送が街中では聞こえないので、台数を増やしてもらいたい。 ・冬期間の避難路確保に関しては、除雪問題も含めて考えなければならない。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第6班

テーマ2	経済の活性化について
要点	食資源を活かした新たな取り組みについて、皆さんのアイデアや経験などをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・うまいよ！ るもい市は港で実施しているが、街中から遠いので他の場所での開催を考えられないか。 ・他市においても採算が取れているところとそうでないところがあるが、道の駅があっても良いのではないか。 ・留萌の食を代表するものとして数の子があるが、市内でこの食材を使用した料理を出すところがない。地元の人が食べる機会がないのは残念である。

テーマ3	子どもたちの夢と可能性を育てるまちづくりについて
要点	地域や町内会における子育ての環境や船場公園の芝生広場などを活用した子どもの体力づくりについて、皆さんの意見やアイデア、実際の取り組みなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・市内の公園がトイレ、水の問題や遊具不足になどで使えなくなっている。 ・ぶるもを休止しているが、いつ再開できるのだろうか。市民は増毛や深川へ行っているので早急に再開してもらいたい。 ・公園の遊具をきちんと整備すべきである。母親のコミュニケーションの場ともなっている。 ・公園で移動図書館や読み聞かせなど、子どもが興味を示すイベントを行ってはどうか。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第7班

テーマ1	安心安全なまちづくりについて
要点	まちの防災体制などについて、皆さんの現状、心配事や意見、アイデアなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	【避難マップ、避難路等】 ・町内会で火災の避難訓練を行ったが、具体的に避難場所への誘導を行うために、今回の津波の影響等も考慮した避難マップをいただきたい。 ・高齢者の避難について苦慮しており、特に冬場は難しい。車での移動は混乱を招くため原則的には使用しないことが大事であるが、高齢者を避難させる場合など、車を使用しなければならない状況もあるのではないかなと思う。 ・高台までのアクセスについて、地震により道路が使えない所も出てくることが想定されるので、ケースによった避難経路を示してほしい。 ・平成25年の春ごろ津波ハザードマップが完成するスケジュールとなっているが、簡易版でもできるだけ早く示していただきたい。 ・昼夜の違いでも避難の難しさは変わってくる。 【防災意識】 ・高台の地域と低地の地域では意識にギャップがある。 ・今回の大震災の影響で防災に対する意識、危機感が高まっているが、これを継続させることが必要で、そのための情報発信が必要になってくるのではないかな。 【その他】 ・旅館を営んでいるが、20数年前に民間会社が管内の地質調査を行っており、6mクラスの津波であれば、留萌小学校や聖園幼稚園あたりであれば大丈夫だと聞いているが、正しい情報なのか。 ・町内会の高台に位置するところに水道の水を溜める水槽があり、地震の時には壊れてしまうのではないかと心配している。

テーマ2	経済の活性化について
要点	食資源を活かした新たな取り組みについて、皆さんのアイデアや経験などをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	【人口・雇用・消費】 ・人口を増やす方策が必要ではないか。これは個人の取り組みでは難しいことである。 ・市役所も緊縮財政であるため活性化も難しいのでは。その中でもメリハリのある財政運営が必要ではないか。 ・企業誘致など働く場を増やすことが必要。空き地を無料で使用してもらうことや、被災者を受け入れることなども考えられるのではないかな。 ・市内での消費をいかに増やすか。市外へ流出してしまっている消費を市内へ誘導することが必要だが、現状は、ほしい物を買える店がない。 【市の施策について】 ・観光にしても、旧幌糠小学校の利活用にしても、道の駅ができなかったことについても、中途半端だという思いがある。 【食資源について】 ・うまいよ！るもい市のときは地方からもたくさんの人が集まるように、留萌でしか食べられないような物、資源があるので、もっとPRを展開することが必要ではないか。 【道の駅の建設】 ・農産物の直売所など、ここに行けば地場の物が揃うというような常設の販売店機能を有する道の駅が必要ではないか。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第7班

テーマ3	子どもたちの夢と可能性を育てるまちづくりについて
要点	地域や町内会における子育ての環境や船場公園の芝生広場などを活用した子どもの体力づくりについて、皆さんの意見やアイディア、実際の取り組みなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	【子どもを育てるための環境】 ・市内には保育所が3箇所あるが、南町など郊外にはないため小規模でも分散して施設があればいい。 ・待機児童もいるので、全員が入れる規模にしてほしい。 ・元々あった、スキー場とぶるもについては早期に開設してほしい。 ・スキー授業は家計の負担も大きいので、他のスポーツでもいいのではないかなと思う。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第8班

テーマ1	安心安全なまちづくりについて
要点	まちの防災体制などについて、皆さんの現状、心配事や意見、アイディアなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・地震が発生し津波が来た場合、港町の鉄道の壁や黄金橋が崩れると港側に行くしかなく、心配である。 ・五十嵐町のリラの裏に留萌川が流れているが、津波が来たときはどのような想定なのか早く知らせしてほしい。 ・高齢者をどう避難させていくのが問題。特に若者の少ない地区は高齢者同士が手を取り合い避難しなくてはならない。また、避難時にエレベーターが使えなくなり、階段で避難することが想定される。 ・避難所として、開発庁舎を想定してはどうか。 ・港西コミセンは、大町・港町・本町・明元町の住民が集まると飽和状態になる。留萌小学校や沖見小学校も避難所としてはどうか。 ・水位をイメージできるように、各地域に海拔表示をしてはどうか。 ・高台に避難するとなると、車の置き場が必要となる。 ・津波は例外として、高齢者や障がい者などの弱者は近くの避難所へ、若者や健常者は少し遠くの避難所へ集まることも考えてはどうか。 ・弱者の避難方法として、リヤカーなどを使った避難も有効ではないか。 ・高台なので津波ではなく地震が心配である。市として各施設の耐震調査はしているのか。 ・災害が発生すると、ケガなどで病院へ行くことがあるが、低地の市立病院がそもそも発電や病院機能として災害に対応しているのか。 ・市役所は海拔何メートルぐらいか。浜中地区は3メートルの津波でダメになると聞いている。 ・北海道の津波の想定だと、船場公園や川沿いに水が上がってくる。地形を考えて被害を想定しなければならない。 ・留萌川の幅はどのくらいか。川幅によって水が上がってくる高さが変わってくる。

市政懇談会「留萌子ども夢物語」グループ討議 第8班

テーマ2	経済の活性化について
要点	食資源を活かした新たな取り組みについて、皆さんのアイデアや経験などをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・留萌はニシンのまち。水産加工も先駆けた地域なので、そこに力を入れてはどうか。 ・管内町村はそれぞれ特徴があるが留萌には何もない。留萌にはアイデアがないと思う。 ・船を持っている人が少ない。もっと一次産業に力をいれればいいと思う。 ・消費者は、もっと地元で買い物をすべき。物が高いとか、良い物がないなど理由で地方に買い物に行く人が多いと感じる。 ・留萌は通過型観光地なので、もっと滞在してもらえるように道の駅をつくってはどうか。 ・旧病院跡地へ道の駅をつくるという意見が過去にあったと思うが、その後どうなっているのか。 ・地元のものを売り込む、地方から集客する、お金が落ちるという仕組みを考えてはどうか。 ・地元でも、小さな商店よりも大型店へ買い物に行ってしまう。 ・財政の健全化もいいが、地域の活性化につながる策が必要である。 ・カズノコ生産日本一の技術をもっと地方へPRしてはどうか。 ・地元で美味しいものがたくさんあるのに、PRが足りないと思う。 ・地元のものを地元で買える販売のシステムを確立してはどうか。 ・いちごやグスベリーなど、留萌のもので新たな特産品を見つけてはどうか。
その他	◆留萌市立病院の医療費が高く感じる。年金生活者には厳しい。

テーマ3	子どもたちの夢と可能性を育てるまちづくりについて
要点	地域や町内会における子育ての環境や船場公園の芝生広場などを活用した子どもの体力づくりについて、皆さんの意見やアイデア、実際の取り組みなどをお話し下さい。
テーマに対するグループでの主な意見	・船場公園の管理棟の完成後は、使用料金が発生するのか。 ・高砂公園には水・トイレ・遊具がそろっており、地方からも遠足などで利用されている。整備されている公園には人が集まってくる。 ・五十嵐町市住リラに隣接する公園では、親もごみを捨てていくので管理ができない。 ・町内会でも、樽神輿など子どもの関連事業がほとんどない。 ・他の町内会と合同でラジオ体操を実施する予定である。 ・町内会の合併や地区の見直しという方法を考えては。 ・若者がなかなか参加しないため、町内会役員の担い手も不足している。 ・子どもに関しては、主婦や母親など女性の意見が必要。女性がこういう意見交換ができる場が必要である。 ・地元でプールやスキーができない中で、このテーマは絞込み過ぎではないか。 ・プールに入るにしても、着替えてシャワーを浴び、運動してから泳ぎ、上がるときは目を洗いシャワーを浴びてから着替えるなど、団体生活上のマナーを学ぶという意味からも、実はとても大切なことである。 ・プールがダメなら、海・川を活用してはどうか。 ・道具や場所ではなく、生活上の楽しさを教えることも必要である。